



自治体関係者向け勉強会

こども宅食とは？

2020年10月 こども宅食応援団

こども宅食とは

様々な形で困りごとを抱えている子育て中のご家庭に
周囲に知らない形で、
定期的に食品や生活用品を届ける事業

家庭と
つながる

関係性を
築く

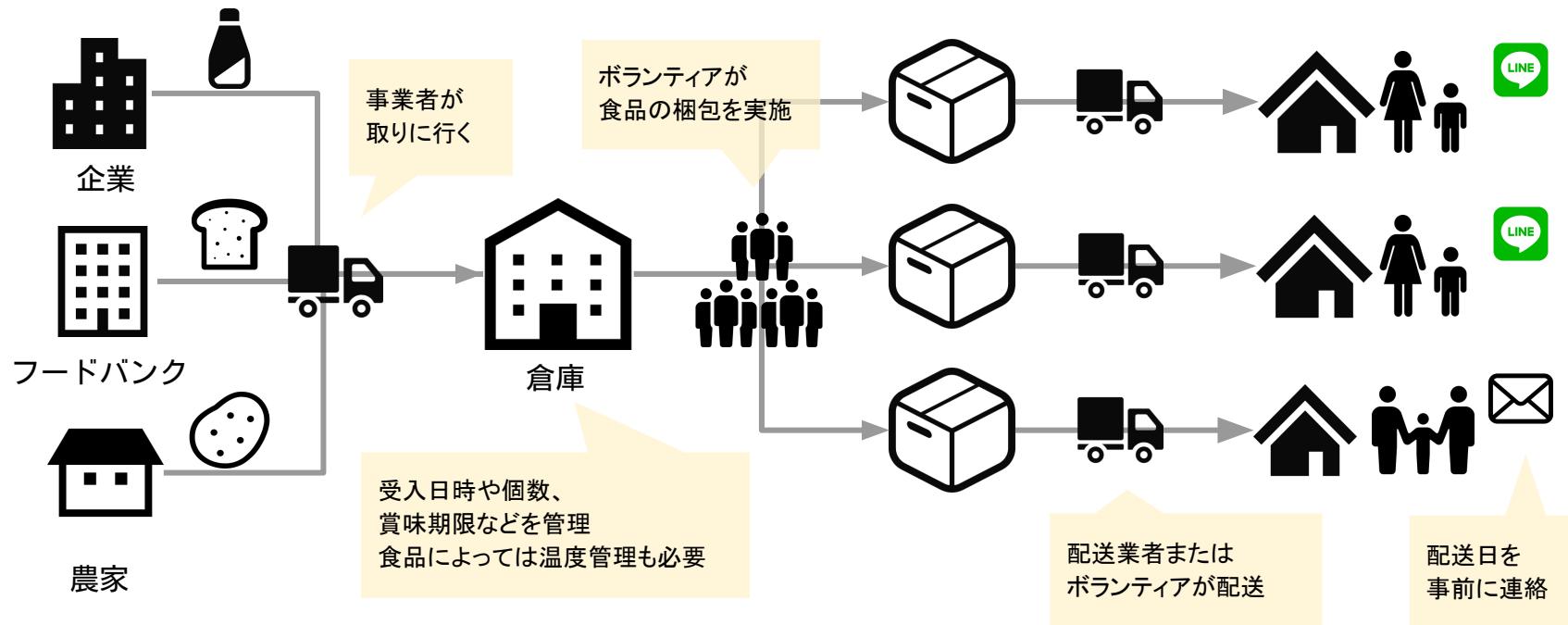
変化を
見つける

こども宅食事業の実施プロセス



農家や企業、フードバンクから寄付で頂いた食品を倉庫に保管。

配送前に梱包して個別に配送するのが基本の流れ。

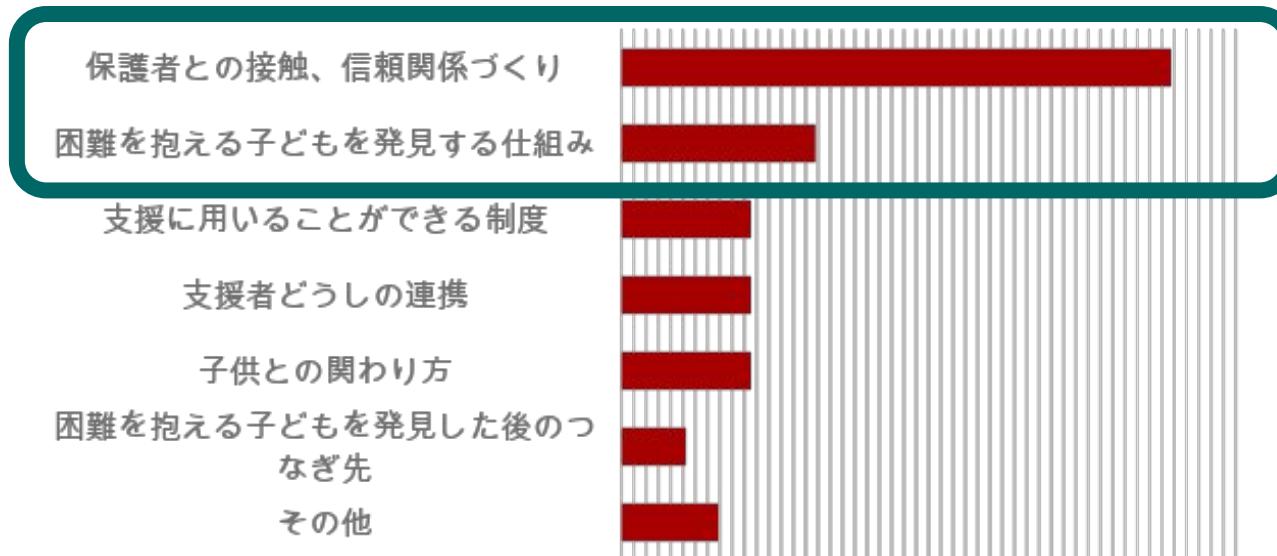




なぜこども宅食が必要なのか？

支援者が、困難を抱える子どもとその家庭の支援にあたって困難を感じることで多いのは、「保護者との信頼関係づくり」。
その次に多いのは「困難を抱える子どもを発見する仕組み」が不足していること。

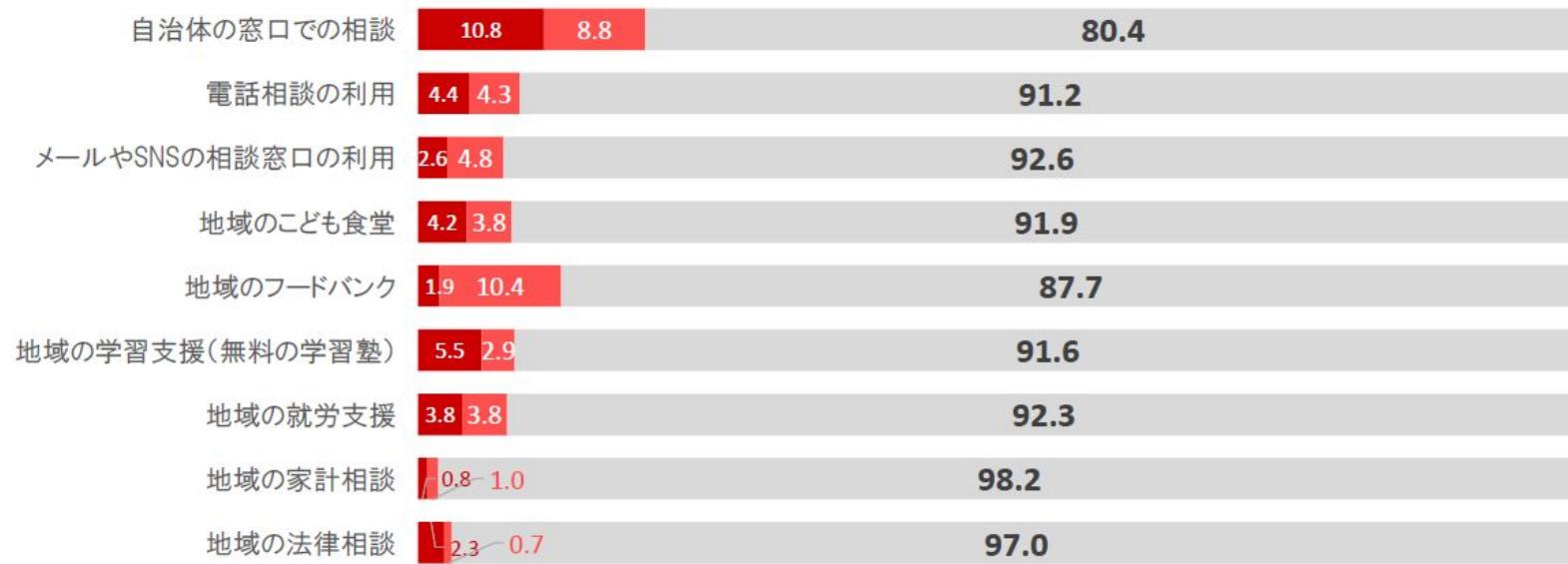
困難を抱える子どもとその家庭の支援にあたって困難を感じること(N=19/複数回答可)



困難を抱えるご家庭では支援サービスの利用率は低く、8割の人が利用していない。既存の方法では、家庭に支援が届きにくい現状がある。

以下のサービスや窓口の利用状況について、教えて下さい。

(%)



■コロナ禍以前は利用していたが、今は利用していない

■現在も利用している

■もともと利用していなかった

支援が届きにくいのは、社会に様々な制約や障壁が存在するから。



心理的な障壁

家計も赤字だし、子育てもうまくできていないし、人に知られたら「親として失格」と思われるのでは

私より困っている人がいるんじゃないかな、私なんかが利用していいのかなという思いがあって。

昔、支援を受けたときに嫌な思いをしたことがあって。もう関わりたくない。



物理的な制約

仕事を掛け持ちしながら子育て。平日に窓口に行く余裕がない。

フードバンクやこども食堂に行きたくても、ガソリン代や駐車場台を出すお金の余裕がないんです。



周囲のまなざし

プライドなのかもしれないけど、貧しい、生活が苦しいというのを周りに知られたくなくて。特に保育園の人には。

田舎町の○○市で支援を受けることは…何人も顔見知りがありますので…子ども食堂やフードバンクもありますが利用できません。



情報の伝達

どうやって支援団体に助けを求めたらいいかも、わかりません。

とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと届かないし、支援自体が少なすぎる。

支援が届きにくい家庭に
リーチできない

リーチしても
支援が利用されない

こども宅食で実現できること

物品や情報を
直接届ける

定期的、継続的に
関わる

つながるための
関係性を生み出す

つながりにくい家庭の生活課題の重篤化を予防する

子供の貧困対策に関する大綱：基本方針

1

貧困の連鎖を断ち切り、
全ての子供が夢や希望を持つ社会を目指す。

2

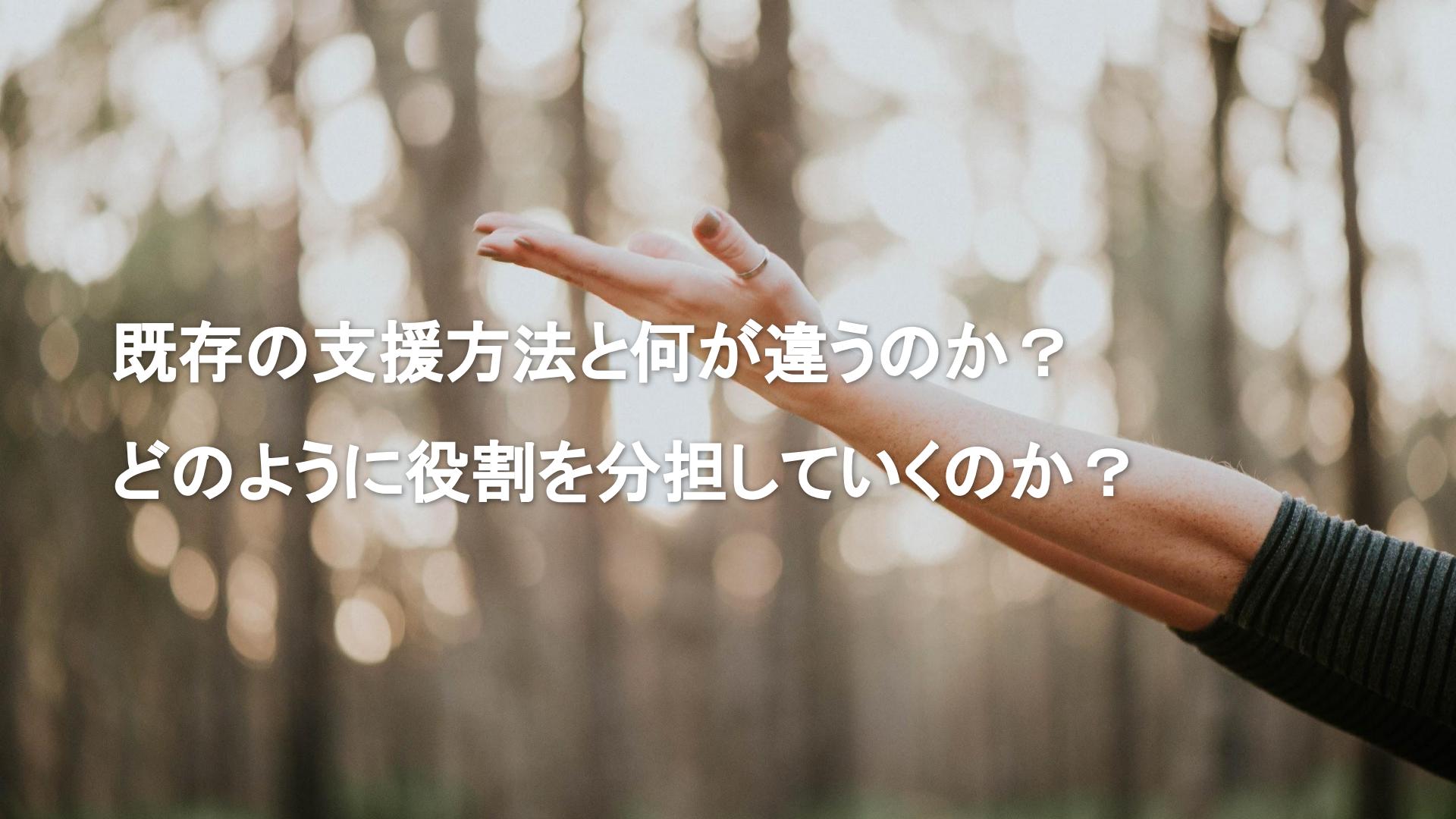
親の妊娠・出産期から子供の社会的自立までの
切れ目のない支援体制を構築する。

3

支援が届いていない、又は届きにくい子供・家庭に
配慮して対策を推進する。 New

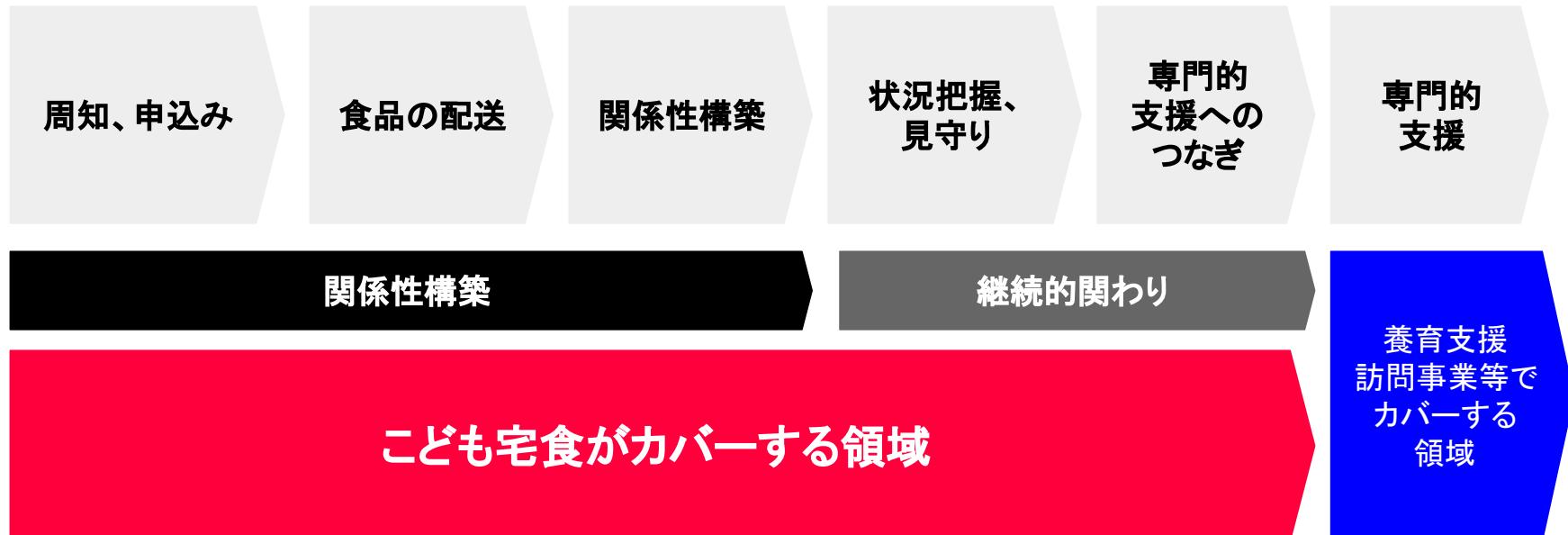
4

地方公共団体による取組の充実を図る。



既存の支援方法と何が違うのか？
どのように役割を分担していくのか？

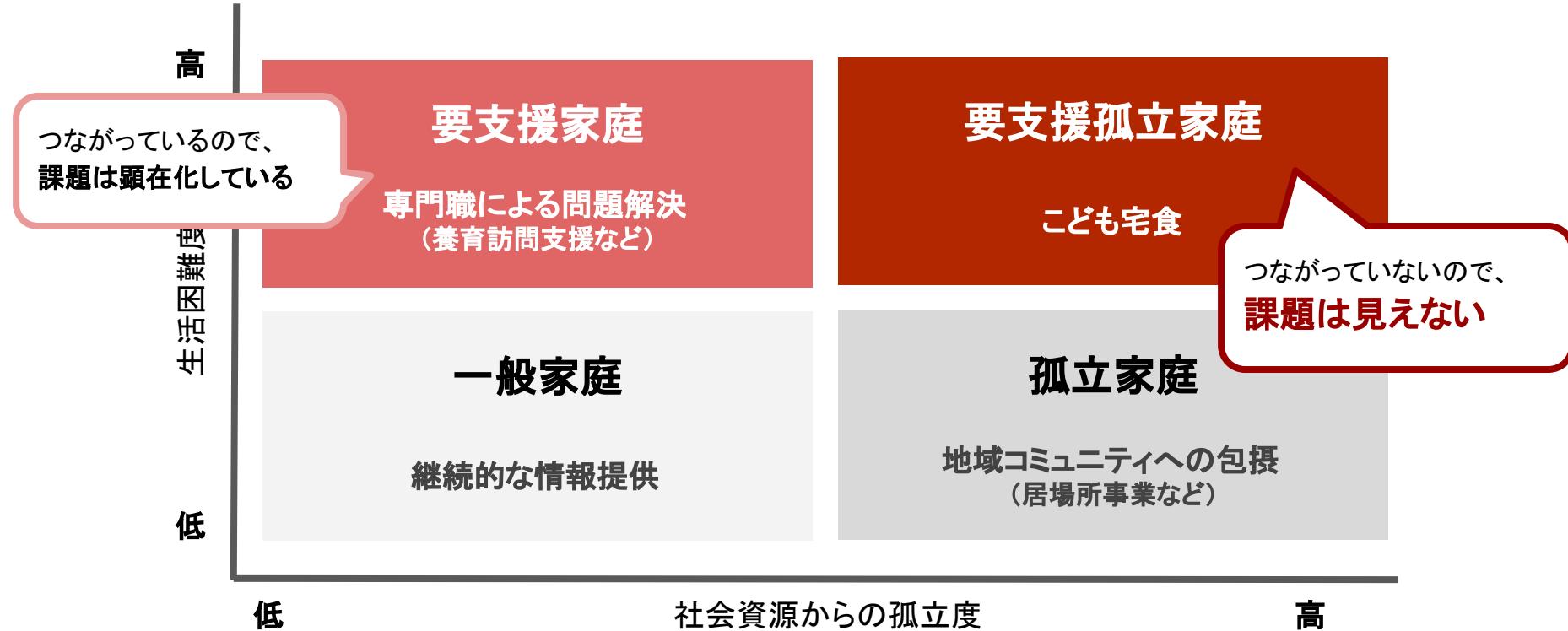
こども宅食は「専門的支援へのつなぎ」になるツール、支援の入り口として既存の専門的支援によりつなげやすくしていくと考えています。



子ども宅食は、困難がより見えづらく、アプローチしづらい、
要支援孤立家庭を対象とするのが適していると考えています。



こども宅食は、困難がより見えづらく、アプローチしづらい、
要支援孤立家庭を対象とするのが適していると考えています。



こども食堂やフードバンクとは、対象とする世帯が異なると考えています。
それぞれが地域の中で共存し、補完しあうことが必要であると考えています。

対象	比較的つながりやすく、支援が届けやすい家庭	つながるのが難しく、支援が届きにくい家庭 (要支援孤立家庭)	
支援	見られる支援 (支援として自覚しやすい)		見られない支援 (支援として自覚しにくい)
		受動的・一時的	能動的・継続的
社会資源	<ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂 ・フードバンク、パントリー ・窓口での相談(行政、NPO) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話／メール相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・こども宅食

こども宅食で出会った家庭とその課題

取り扱い注意

使える制度を知らない家庭

- 小学生の子どもと二人暮らしのシングルマザー(30代)。失業し、失業保険と貯蓄で生活していた。
- 生活費や将来が不安であると「こども宅食」に申し込み。
(=就職の相談をしたかった訳ではなく、単なる食料支援として申し込んだ)
- 長期に派遣職員として就労。「生きるための仕事と感じ、働く事に意欲がわからない」という状況で、正職員との格差などに悩む。

外から見えづらい・行政の情報だけでは把握できない困窮

- 庭付きの新築の家、ソーラーパネル、自家用車など
外からは困窮の問題は無さそうな家庭。
- 20代後半の夫婦と子供4人。
- 共稼ぎのため、勧められるままに多額のローンを契約。毎月の返済が高額であり、外出、食費や子供の衣類等を節約。生活費の不足をカードで埋める生活。
- 夫は「夫婦二人で働いているのだから何とかなる」と妻の不安を聞き入れない。

自分の課題が把握できていない

- 母親に軽度の知的障害がある、ひとり親家庭。
- 障害認定も受けていない
- 子どもが3人おり、食事の提供も含め養育が難しい状況。
- 保育所から「子どもが食べていない様子なので、様子を見に行ってほしい」とこども宅食事務局に紹介があった。
- 本人は養育困難の状況にあるという認識はない
(きちんと自活できているという認識)。

行政への拒否感が強い

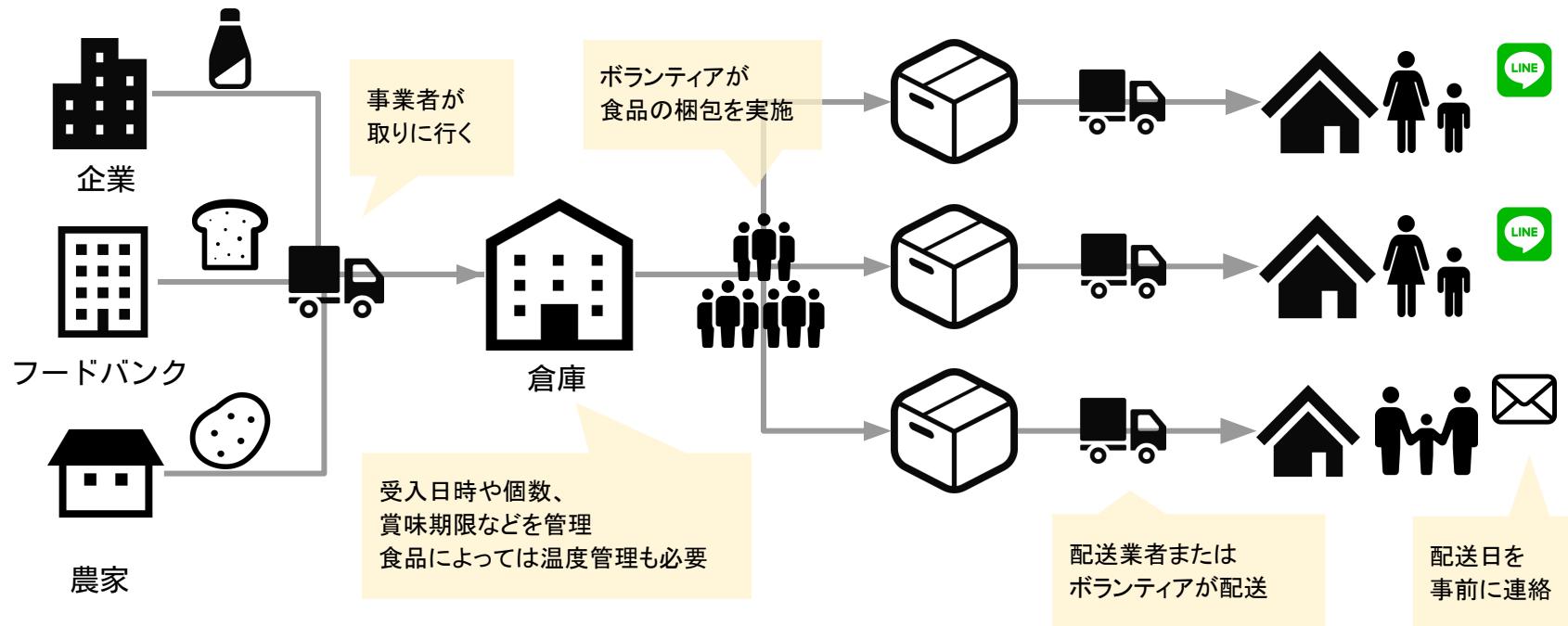
- 夫婦、こども2人の世帯。妻は若い(20代前半)
- 夫がパニック障害で仕事をしていない。民生委員が生活困窮している様子をキャッチし、こども宅食につながる。
- その後子供に対する虐待が発生し、児童相談所に子供が保護される。それ以来、**行政に対する拒否感・怒り**が増える。
- その後、第3子が生まれるが保健師等の訪問を拒む。

A photograph of a person's right arm and hand reaching out towards the viewer. The hand is open, palm facing forward. The person is wearing a dark grey or black long-sleeved shirt. The background is a soft-focus view of tall trees, likely birches, with sunlight filtering through the leaves, creating a bokeh effect of bright circles.

具体的にどんなことをやっているのか？

農家や企業、フードバンクから寄付で頂いた食品を倉庫に保管。

配送前に梱包して個別に配送するのが基本の流れ。



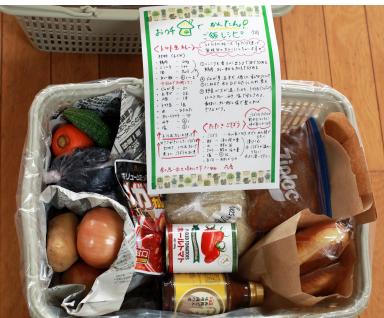
食品確保・保管



配送準備



パッキング



配送

1回あたり配送量

8 kg以上

配送頻度

2ヶ月に1回



地域の特性に合わせた様々なモデルが生まれている



佐賀県佐賀市 こどもおなか一杯便

お金も、人手もすべて地域で集めて、北川副小学校に子どもを通わせる
就学援助受給世帯に食品を届ける、**地域主体の子育て応援プロジェクト**
小学校の校区を対象に、同じ地域にすむ住民が中心となって運営している



宮崎県三股町 みまたん宅食どうぞ便

県外からは見えない「つらい」を抱えた親子とつながるため、
町をあげてみんなで実践するアウトリーチ事業

町で作った農産物や加工食品を、地域のボランティアが中心となって配達している



長崎県長崎市 つなぐBANK総合支援事業

県内の支援団体/専門家が協力し合い、**会員専用の「居場所」で食品提供と同時に総合的な家庭相談を行う、新しいソーシャルワーク事業**

長崎は斜面の上に建っている家が多く、車での配達が難しいことから取りに行く「宅所」事業としている

こども宅食、全国に拡大中！



2020年8月4日時点

応援団が連携して
こども宅食が
始まった地域数

13 地域

応援団が連携している
こども宅食を
実施している団体数

19 団体

地域の特性にあわせた
多様な事業が各地で生まれています！

半年でも十分成果が出た。今後は官民の情報共有が課題。



——こども宅食を開始しようと思ったのはなぜでしょうか？

官民連携し、周囲に分からいかたちで、必要とする家庭に
ピンポイントで支援が届けられるところが画期的だった。

——今年2月からの実施でまだ半年ほどの運営ですが成果は？

深刻な悩みを誰にも打ち明けられずにいた家庭からもLINEで相談があった。食品を渡す際のささやかなコミュニケーションの積み重ね。聞き取り調査などとは違う**程よい距離感が重要**と感じる。地元企業からの食品寄付や、ボランティア参加なども増え、
「地域で親子を支える仕組み」がてきた。

——今後の事業の課題は？

困窮家庭に対する物的支援はあくまで入り口にすぎない。こども宅食の狙いは家庭を見守ること。支援につないだ後の見守りでも官民連携し、**適切に情報共有ができる仕組みが必須**。

畠山博氏

- 医療法人財団足立病院 理事長
- 社会福祉法人あだち福祉会 理事長
(京都市こども宅食プロジェクト 事務局を担う。通常の保育園の他、足立病院では病児保育事業も運営)
- 産婦人科医
- 京都大学医学部大学院修了後、同大学産婦人科助教として勤務

一人で課題を抱え込む親子にも...「食」は万人に効く強力なツク

——こども宅食の強みをどう分析しますか？

いきなり深刻な相談はハードルが高い人や、根本的な問題を本人が認識していない場合、相談・支援の窓口で待っていても出会えない。一方で、「無料なら食品がほしい」というSOSは比較的どんな人でも出しやすい。援助要請が弱い人でもつながりやすいのがこども宅食です。

「アウトリーチ」とは単なる訪問支援ではなく、もっと手前で、外から見えない課題をこちらから探しにいくこと。

中には、行政に不信感・拒否感がある場合や、本人は相談したくても親や配偶者に『相談になんか行くな』と言われるケースも。「食品を手渡すために」という理由があることで、自然に・定期的につながり持てるのが強みです。

三股町
見守り強化事業
導入！



松崎亮氏

- 三股町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
- 三股町「みまたん宅食どうぞ便」事務局
- こども宅食の他のこども食堂、無料学習支援、引きこもり児童向けの新規事業などの企画・運営
- 近隣自治体でのこども宅食事業の立ち上げサポートを行う

いまの福祉には専門的支援への「つなぎ」が足りない



長崎市
見守り強化事業
導入！

——つなぐBANK事業の役割はどこにあると思いますか？

医療・福祉・法律相談など連携してくれる専門的機関は地域にきちんとある。ただ、そこまで行きつくことが出来ない家庭をつなげていく総合窓口が必要であり、その役目を担いたい。

——「相談や支援につなぐ」そのために重要なことは何ですか？

信頼関係を構築することが重要。食品提供のボランティアスタッフと対面で話したり、LINEでの相談等のやりとりを通じて、「自分を応援している人がいる」事を実感してもらえると思います。

——定期的な接点のなかで、実際に支援につながったケースは？

食品を手渡すときには目視でご家族の様子をみることができます。過去に子どもの様子に異変(あざ)があったときは、親と話し、問題を早期に発見・対応することができました。

山本倫子氏

- 長崎市版こども"宅所"つなぐBANK事務局長
- 長崎県ひとり親家庭等自立促進センターセンター長(※長崎県子どもの貧困総合相談窓口／長崎県にんしん SOS 相談窓口も新たに開設)
- 一般社団法人ひとり親家庭福祉社会ながさき 事務局長
- 元・長崎県社会福祉協議会勤務

「居場所が苦手な人もいる」前提で事業を組み立てる必要がある

——普段、子ども食堂も運営しながら、今回、見守り強化事業でこども宅食の活動も取り入れることにしたのはなぜですか？

コロナ禍で、LINEや電話で予約してお弁当を取りに来てもらう事業を始めた。そこで「今まで子ども食堂に来ないタイプの親子も来ている」ことに気がつきました。世帯人数など最低限の情報を伝えて、お弁当をもらってさっと帰る。

——その理由は何だと考えますか？

食堂と比較し、「少数の人と接すればよい」、「最低限の会話で済む」という特徴がある。良い意味で<閉じている>事業。

周囲の目が気になる人や、コミュニケーションが苦手な人でも最初の入り口として利用しやすいのが「こども宅食」。

子ども食堂という居場所、事情があり居場所に来づらい人向けのこども宅食、それぞれの役割があり両方必要です。



金子淳子氏

- 金子小児科院長
- 山口県小児科医会副会長・乳幼児保健検討委員会委員長
- 赤ちゃん成育ネットワーク事務局長
- 国立成育医療センター新生児科レジデンツ、山口大学周産母子センターに勤務後、開業
- 島根大学医学部卒業、山口大学医学部小児科学講座